

平成28年度 高山市議会『議会活動』の評価

評価期間

平成27年5月1日～平成28年12月21日

評価実施者

氏名 中田 清介

議員期数 5期

所属常任委員会 文教産業委員会

評価日

平成28年12月28日

評価

◎：「十分達成できた」 ○：「概ね達成できた」

△：「達成できない部分が多くあった」 ×：「できなかった（取り組まなかった）」

主要評価項目	評価	評価理由	課題
1. 公正性と透明性を確保するとともに、市民に開かれたわかりやすい議会運営を行えたか	◎	見える化、見せる化を徹底したことにより、プロセスとしての公正性と透明性は高まった。	常に見直しに努力することが必要。
2. 市民の意見を的確に把握して市政に反映できるよう、市民参加の多様な機会を設けることができたか	○	アウトリーチによる市民意見の聴取は活発になった。分野別市民意見交換会の開催が功を奏している。広報広聴委員会の活動も内容的に充実してきた。	審議審査過程での市民参加に、積極的に道を開く必要がある。
3. 政策の決定及び執行について監視し評価できたか	○	行政の評価シート、査定シートを活用し、監視機能や評価機能は高まってきた。自由討議の活発化も課題の共有と論点整理に役立っている。	決定内容の充実に向けては、今後なお一層の努力が必要と考える。
4. 市民の意見を考慮した政策提言を行うとともに政策立案に努めたか	○	各常任委員会が市民意見を基にした政策提言に努力した。政策の芽出しという意味で、各種意見交換会の成果が出ている。	政策立案には至っていないが、条例改正や政策条例に果敢に取り組むべきと考える。
5. 重要な政策については、政策立案段階から論点情報を把握し、深い審議及び審査に取り組むことができたか	△	協議事項の扱いについて議会はH25に行政にその適正化を申し入れたが、意識の差がなかなか埋められなかった。H27になって市長はその充実を行政内部へ通達した。	行政の情報提供と、議会の調査活動。その上に立った政策協議を充実することが必要。
6. 議員間での討議を重ね、合意形成に努める議会運営を行えたか	○	自由討議の活発化に努力してきた。明らかに従前とは異なり、付帯意見や執行時の留意点などの表明が活発化し、政策協議についても1歩前進できた。	議会も行政も、もっと連携・連動する政策協議の在り方を研究する必要がある。
7. 議会における審議の内容及び過程を市民に説明するとともに、市民との意見を交換する地域別市民意見交換会を開催したか	○	地域別意見交換における市民からの意見数は着実に増え、その内容も政策提言型が多くなり充実してきた。	議会・議員の側の積極性はこれまで以上に求められる。
8. 政策課題等について市民との意見を交換するために、分野別意見交換会を開催したか	○	必要な回数を実施してきた。しかしマンネリ化することなく継続する努力も必要であると感じた。	陳情要望から実施することも必要だが、委員会独自の情勢分析も必要である。
9. 公聴会制度、参考人及び専門的知見を有する者、市民の専門的又は政策的知見を、議会の審議などに活用したか	△	本来は公聴会を実施すべき課題は多くあった。しかし分野別市民意見交換会がその機能の一部を果たしたともいえる。	参考人招致、専門的知見の活用も積極的に実施するべき。
10. 請願及び陳情の審議においては、必要に応じ当該請願者又は陳情者の意見を聴くことができたか	○	請願案件はなかったが、陳情案件のうち必要なものについては分野別意見交換会も活用することで対応できた。	市民を縛る制約条件は、解除の対象として情報収集する姿勢が求められる。
11. 必要に応じて市の政策課題について市民と共に学ぶ機会を設けたか	○	市民にも公開された研修会の開催は多くはなかったが、意見交換会では市民と多くの政策課題について、その深堀もでき	産業・経済分野では特に市民と課題を共有する必要がある、多く

		たと考えている。	の場を設定する必要がある。
12. 議員の審査、政策提言及び政策立案の能力を向上させるため、議員研修の充実を図ることができたか	○	講師を招いての議員研修は今期なかったが、議会改革を通じて議員の審査能力は確実に向上した。	講師招聘の為に課題ごとの情報収集が必要。